



SDGs経営戦略支援プログラム

SDGsで会社を未来志向型に変革する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2030年までに日本政府が中小企業に主流化を促す
SDGsを経営に取り入れる



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

認定NPO法人地球市民の会

SDGsとは？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

全体の概要

国連広報センター（UNIC）に事務局をおく、SDGsの達成に向けて活動する、国内主要企業の経営トップ主導型ネットワークであるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の佐賀県で唯一の加盟組織である「認定NPO法人地球市民の会」がファシリテートします。中小企業がSDGsを経営理念に取り込み、実践することで、ビジネスチャンスを広げ、SDGs達成を通じた中小企業の企業価値向上・競争力強化を目指すための支援を行うプログラムです。

目指す目標

中小企業の経営者並び社員がSDGsを活用した取組の必要性に気づき、独自の取組を進めることで、持続可能な経営を行う企業となり、社会から愛され、社員が誇りに思い、未来を創ることに貢献できる会社の体制を構築すること。

中小企業がSDGsを経営戦略内に取り組むことのメリット

- ①新しいビジネスパートナーが生まれる。
- ②自社技術のイノベーションが図れる。
- ③企業ブランドが上がる。
- ④地域や顧客、仕入先の信用が高まる。
- ⑤SDGsに対する資金が増えてきている。
- ⑥社員の愛社精神が高まり、会社に貢献する社員が増える。
- ⑦社員の定着率が上がる。
- ⑧新卒学生の就職先としての選択に残る。
- ⑨企業の持続的成長、将来的なリスク回避。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

企業導入編（プランの紹介）

セッション①

社内でSDGsの理解を定着させる講義とワークショップ（半日研修3時間）

対象：社員全員

目的：社員がSDGsの企業戦略としての重要性を理解し、会社帰属意識を高めること

【プログラム】

- ①SDGsの概要と背景
- ②なぜ、SDGsを中小企業が取り組まなければならないか
- ③SDGsの理解を深めるワークショップ



セッション②

SDGs社内行動憲章作成ワークショップ（1日半研修10時間）

対象：社員の中から募ったメンバーによるタスクフォース

目的：企業経営の根底である経営理念などをベースに企業オリジナルのSDGs行動憲章を作成し、経営層並びに全社員にプレゼンテーションすること

【プログラム】

- ①現行の企業理念・企業行動規範の再理解
- ②SDGsと現行の企業理念・企業行動規範を見直す
- ③自社の現行の企業理念・企業行動規範とSDGsを統合する
- ④経営層にプレゼンテーションをする
- ⑤全社員に発表する



セッション③

SDGsアクションプランの作成ワークショップ（2日間研修14時間）

対象：社員の中から募ったメンバーによるタスクフォース

目的：SDGs行動憲章を実施するためのアクションプランを作成し、企業価値向上・競争力強化に関する活動を全社的に取り組むこと

【プログラム】

- ①現行の企業理念・企業行動規範の再理解
- ②SDGsと現行の企業理念・企業行動規範を見直す
- ③自社の現行の企業理念・企業行動規範とSDGsを統合する
- ④経営層に発表する

※オプションで、当会の活動地であるミャンマー等へのSDGs視察も予定。（別途、参加費）

活動実践編

作成されたSDGsアクションプログラムが実際に日常の企業活動の中で実施されていなければ、意味はありません。

PDCAにおけるソーシャル・インパクト評価と費用対効果を重視し、企業価値と企業の持続可能性を最大限に高めるために、**コンサルテーションとモニタリング**及び評価を行います。

SDGs県内取組事例

株式会社中村製材所（佐賀市）



森林保全は世界的な課題である。SDGsでは陸上資源を守る目標15で「持続可能な森林の経営」を掲げています。佐賀市諸富町の中村製材所は、木材の利用に「持続可能性」という観点を取り入れ、生態系に配慮した森林の木材の利用拡大を図るなど、様々なアイデアで取り組みを続けています。

SDGsをキーワードに持続可能な取り組みを試行錯誤している、中村社長は、県内外の企業同士の連携を通して製材業の生き残りをかけています。

同社は、2006年に「適切に管理された森林」を保証するFSC（森林管理協議会）による国際的な森林の認証制度を取得した。認証後、九州電力が管理するFSC認証森林から木材等を提供しています。

世界的な大企業であるスターバックスコーヒーが進める環境性能に優れた店舗建築に協力。2010年にオープンした福岡の大濠公演店は、アメリカのクリーン建築基準である「LEED認証」の κατηγοリーを世界中のスターバックスコーヒーで初めて取得しました。

また、県内においては、知事室、来賓室の壁や家具、佐賀市の1階の家具にも提供されています。

ここ近年は、機関投資家もESG投資（環境・社会・ガバナンス）への動きが加速しています。

中村社長の取り組みは、環境、林業関係の業界の持続的な発展の下支えだけでなく、時代のニーズにあったビジネスモデルとなりつつあります。

また、人材育成にも取り組んでいます。SDGsに興味をもつ、若い層も増えてきていることから、中村社長の話を聞きたい人たちも増えており、積極的に受け入れを行っています。

SDGsを軸に今後の業界および環境を考えた取り組みは、今後も佐賀のモデル企業として、日本、世界に発信していくことでしょう。

認定NPO法人地球市民の会（佐賀市）

【志学生プロジェクト】

タイの農村部に住む経済的に恵まれない学生（高校卒業以上）が佐賀に来て、介護福祉士として確かな技術と知識を身に付けてもらうプロジェクトです。

日本語学校と短期大学で学んで介護福祉士の国家資格を取得し、介護事業所で正職員として働いてもらいます。

地球市民の会は1987年より、奨学金事業を中心に、タイを“支援する”という立場を続けてきました。しかし、タイの経済発展が進んだため、2017年度で奨学金事業は「役目を終えた」として終了。

代わりに企画したのが、この志学生プロジェクトでした。

同プロジェクトでは、学生はまず2年間、留学ビザで入国して日本語学校で学び、日本語能力試験のN3（日常的な場面で使われている日本語をある程度理解する）以上を目指します。その上で、短期大学の介護福祉士養成コースへと進学し、2年間で介護福祉士の国家資格を取得。その後は、「介護」の就労ビザで介護施設において働けるプロジェクトです。4年間の学費は、介護施設が貸与型奨学金として支出。留学生は介護施設でアルバイトとして働きながら、給料の中から少しずつ返済するというシステムです。タイでは現在、日本以上のスピードで少子高齢化が急速に進んでおり、今後、介護へのニーズが高まることは必至です。日本の介護技術を身に付けた“パイオニア”を育てることで、農村部の若者はより高い給料を得て、貧困の連鎖から抜け出すことができます。また、日本の介護施設の人手不足解消にもつながり、日本とタイの社会問題を解決することにつながると信じています。両国が“パートナー”として、同じ社会課題に取り組むのがこの事業の狙いです。

事業を通じ、SDGsのゴール1「貧困をなくそう」3「すべての人に健康と福祉を」4「質の高い教育をみんなに」の達成に寄与します。



認定NPO法人地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

TEL : 0952-24-3334

E-mai : office@terrapeople.or.jp

HP : <http://terrapeople.or.jp/main/>